

各校の取り組みをご紹介します

小・中学校では、地球温暖化の防止につながる節電や冷暖房の適正な温度設定など、省エネルギーの実践に努めることはもちろん、そのほかにも、各学校ごとに特色のある取り組みを実践しています。

子どもたちが、学校での環境保護への取り組みを通して何を感じ、何を学んでいるのか…。この機会に、お子さんやお孫さんに聞いてみてください。そして、ご家庭で積極的に、環境問題について話し合ってみてはどうでしょうか。



《名和中学校》できることから…
生徒会を中心に、「身のまわりでできることから始めよう」を合言葉に取り組みを始めています。



《名和小学校》環境学習の成果を発表会で披露
「一人一鉢」の花づくり活動を推進し、花一杯の名和小学校。10年ほど前に始まったわりばし回収のほか、「名和川」での遊びをきっかけに、自分たちにできる環境改善推進について考える学習を展開しています。



《庄内小学校》
生ゴミのリサイクルに取り組む4年生
「ぼかし」を使って、給食の残飯などの生ゴミの肥料化にチャレンジしています。作られた液肥や腐葉土は、学級園や花壇などで利用しています。



《光徳小学校》水質検査に取り組む4年生
真子川の水質検査や地域の方々と協力した海岸清掃などの環境保全活動を積極的に実施しています。



表彰式後、認定証を手に記念撮影。
これからも環境保護に積極的に取り組みます

本町からは、町内すべての学校（庄内・名和・光徳小学校、

町内の小・中学校は 第1種に認定

環境管理について「計画、実施、点検、見直し」の継続的なシステム構築を求めた国際環境規格ISO14001の簡易版といえ、管理運用の程度により種から種まで3段階が設定されています。



取り組みの成果を堂々と発表



片山善博知事から認定証を受け取りました



鳥取県版環境管理システムに

町内すべての学校が認定されました

鳥取県版環境管理システム（TEAS）の平成15年度審査登録証授与式が3月29日、鳥取市の県立図書館で開かれ、県内49の事業所や学校、家庭に片山善博鳥取県知事から登録証が授与されました。

地球環境を守るために

鳥取県版環境管理システムは、ごみの減量化や二酸化炭素排出の削減など、環境に配慮した活動の推進を図ろうと、鳥取県が基準を設け、それを満たす中小企業、学校、地域家庭を認定する制度です。

名和中学校（が、今回第1種の認定を受けました。
これまでの環境活動を継続しつつ、新たに活動の目標設定や環境に配慮した基準を設けるなど、システムを構築し、学校一体となった取り組みが認められたものです。

学校それぞれ特色ある環境活動に取り組み、児童・生徒のみならず、ごみの減量化や二酸化炭素排出の削減など、環境に配慮した活動の推進を図ろうと、鳥取県が基準を設け、それを満たす中小企業、学校、地域家庭を認定する制度です。